

教職大学院専用遠隔教育研究指導システムの開発と試用結果の考察

A Study of Proper Remote Communication System for Advising/Counseling Novices in Master Programs

稲田佳彦 住野好久 高橋香代 橋ヶ谷佳正
Yoshihiko Inada Yoshihisa Sumino Kayo Takahashi Yoshimasa Hashigaya
小山朝子 泊直希 近藤勲
Asako Koyama Naoki Tomari Isao Kondoh

岡山大学大学院教育学研究科
Graduate School of Education, Okayama University)

<あらまし> 教育実践と理論の往還・融合を重視した教職大学院では、院生が学校現場での教育実践を通して、教育課題の発見・分析・解決を図ることを重視している。専用 SNS 系ブログに彼らの印象も含めた実習中の体験などを整理して実習日誌として投稿させ関係者へ公開するだけでなく、教育課題解決に向けた教育研究活動で随時複数の指導教員等から適切な指導・助言が得られるような遠隔教育研究指導システムを開発し構築した。平成 20 年 4 月からの本格的実施前に丸 2 ヶ月モデル学生を使って試用したところ、所期の成果を得たので報告する。

<キーワード> 教職大学院 遠隔教育システム SNS システム開発 開発研究

1. まえがき

平成 20 年 4 月から岡山大学を含めた 19 大学に教職大学院が全国一斉に発足した。本学は平成 19 年度において同大学院設置申請と並行して「文部科学省専門職大学院等教育推進プログラム」（教職 GP という）を申請し採択された。本教職 GP の主なねらいは、本学教職大学院のカリキュラムの一部の試行を通して、本格実施の際の展開・運営に関わる知見・手がかりを事前に得ることをめざした。

2. 本教職大学院のカリキュラムの概要

2.1. 基本理念

本教職大学院のカリキュラムの基本理念は、多角的な視野を持って今日的教育課題の発見・分析・解決を図る高度な教育実践力の育成であり、理論と実践に精通したリーダーを養成することである。

2.2. 特徴

上述の基本理念と学校現場並びに実践を重視したカリキュラムの展開及び教育研究指導体制を具現化させるため、複数の指導教員による少人数あるいは対面による個別指導を指導原則としている。「学校における実習」とそれを共同省察する「教育実践研究」をコアとしたカリキュラム構成となっている。教職未経験の学部新卒者を対象とした授業科目「学校における実習（課題発見）」の実施にあ

たっては、学校現場への適応行動と課題発見の意識・意欲の変化・変遷を事前に試行して分析し、その結果を平成 20 年 4 月からの本格実施で反映させることを意図した。なお、課題発見実習の知見・成果は趣旨、運営形態が類似している「学校における実習（インターンシップ）」という授業科目の実施にも応用される。

3. 遠隔教育研究指導システムの概要

3.1. 必要性和機能

本教職大学院では、多角的視点で課題解決できる能力を養うため、複数教員の視点を利用した指導を重視している。この複数指導体制を具現化させ有機的に機能させるために、以下のような仕組みが必要となる。

① 指導内容・過程を明示化させ、関係者が即時に共有できる仕組み

② 指導教員のみならず院生自身が実践と省察の蓄積・発展過程を必要に応じてレビューし一瞥できる仕組み

一方、2 年次には現任校へ復帰又は新任校へ赴任し通常勤務をしながら、課題解決の方策を実践・検証する。このため、機能面で 1 年次の対面指導に相当する以下のようなシステムが必要となる。

③ 対面指導を補足して、課題解決への指導・助言が指導教員から継続して得られるよう、遠隔教育研究指導システムの構築

3.2. モデル学生による利用事例

平成20年1月8日から2月28日の約2ヶ月にわたり、教職大学院の学部新卒者を想定したモデル学生4人（学部4年次生3人、大学院1年次生1名）を実習校である地域協働学校4校へ別々に一人週1回1日中（8:30～17:30）派遣した。モデル学生が実習体験の省察も含めて、インターネット経由で随時報告できるように、オープンソースのSNSエンジンであるOpenPNEをカスタマイズして教職大学院専用コミュニケーションツールとし、愛称を「こらみゆ」と命名した。右図は、モデル学生が実習日誌として投稿した事例であり、それを閲覧した本学の複数の教職員がコメントを投稿した事例である。

4. 試行結果と考察

モデル学生が実習日誌を「こらみゆ」に投稿すると、大学の指導教職員あるいは他のモデル学生がそれを閲覧し、24時間以内に教示的、激励的なコメントを「こらみゆ」に投稿するという仕組みとサイクルが定着された。このようなハードウェア、ソフトウェア及びユースウェアが構築されたことによって、3.1.で述べた要件を満すシステムが名実共に機能するようになった。

投稿された実習日誌を分析することによって、「こらみゆ」への投稿・閲覧の意義・利点を学生、教員双方の立場から集約し以下の知見を得た。投稿の記述内容が不明な場合は、当該のモデル学生に個別に聞き取りを行い、記述意図や状況描写について再確認した。

- ① 指導教職員からの教示的、激励的なコメントは、モデル学生の実習への動機付けを強化させる効果を与える。
- ② 指導教職員からの指導・助言を随時得られる環境にいることは、モデル学生に安心感を与える。
- ③ 新任教員として新任校で学部新卒者が体験する不安と期待が錯綜した心理状態は、モデル学生もほぼ同じである。
- ④ 教職員は、モデル学生の実習日誌を閲覧することによって、彼らの実習校での処遇を含めた活動状況のみならず内面をかなり正確に、かつ、迅速に把握できる。
- ⑤ モデル学生の実習日誌の投稿時間帯が彼ら一人ひとりの生活態様・リズムを表している。
- ⑥ 4年次のモデル学生同士は「こらみゆ」を通してコメントのやり取りが行われた

生右
Aの
による
初日
の実
習日
誌の
一部
であ
る。

会議なども見せていただき、することがある時間はいいのですが、自分ですることを見つけなければならぬ時間は、なかなか積極的に行けず、たまに座っているだけになってしまう時間もありました。(ω・X・ω*)

勤務が終了し、家に帰ってからは眠気に襲われました(人-ω-)

昨日はデビュー戦ということで、あまり積極的になれなかったのですが・・・

来週は給食もあるのでもっと子ども達と関わること、職員室にいる時は自分から進んで仕事を見つけていくこと、を目標に頑張っていきたいです！！

できれば、教壇にも立ってみたいなあと思っています。来週お話ができたらいいなと思いますε=ε=(ω・ω・o)ノ

みなさんはどうするのでしょうか？

コメント 1番～5番を表示

2008年01月09日 12:32	1	職員 A	<p>パソコンの不具合等もあわせて、おつかれさまでした-----!</p>
		学生 A	<p>さん第1号、良いスタートをされたと思います。</p> <p>一日目からあいさつ運動とか、会議に参加したりとか、がんばりましたね!!!!</p> <p>こんな感じの報告だと、こちら読みやすいし、コメントも書き込みやすいので、いいと思います。</p> <p>最終的にレポートを出してもらおうことになるんだと思いますが.....</p> <p>報告は、実習先のマックブックで実習の終わりにしてくれてもかまいませんよ^_^</p>
2008年01月09日 13:24	2	教員 B	<p>初日の報告、拝読。密度の濃い1日になったようですね。「かわいいだけではダメ」のくだりとその対策に目が向けられている点が課題意識の発露と見受けました。</p>
2008年01月09日 17:31	3	職員 C	<p>初日お疲れ様です。何も知らないところに飛び込むのは難しいですね。小学校の先生方はいい方ばかりなのでぜひ、積極的に頑張っ</p>

図 「こらみゆ」への投稿事例

が、院生のモデル学生に対してはコメントの提供は皆無であった。但し、院生からは4年次生に対して、コメントの提供が散見された。

- ⑦ 指導教職員間ではモデル学生を支えるという一種の連帯感が次第に醸成された。
- ⑧ 実習日誌の記述内容から、一人ひとりのモデル学生の指導理念や価値観などがある程度把握できる上、行動様式、考え方の変遷が容易に把握できる。

以上のまとめの詳細は発表の際、補足する。